

下野市立石橋小学校

1 学校課題

自分の考えをもち意欲的に学習に取り組む児童の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度までの3年間、国語科の説明文に重点を置いて授業改善に取り組んできた。児童の主体的な学びにつながるよう単元構成の見直しを進め、児童が目的意識を明確にもって学習に取り組めるよう工夫してきた。また対話的で深い学びを目指してペア学習やグループ学習の進め方を検討し、児童の話合い活動の充実を図ってきた。その結果「書く」ことへの苦手意識が軽減されてきた児童が多く見られたことは成果である。さらに、教員一人一授業に取り組む中で、学習指導要領の目指す方向性や国語科の「読むこと」「書くこと」の構造と系統についての理解が進んだことも成果であった。

本年度からは国語科で培った表現力をもとに、他教科でも書く力の育成を目指したい。特に明確に根拠を示したり、論理的思考を順序立てて表現したりする力を育成していきたい。そこで本年度は算数科に焦点を当て、その他の教科を含む日頃の授業を充実させたい。職員同士も協働的な学び合いを展開できるよう授業研究を推進していく。

(2) 研究の仮説

- ① 数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し合う活動の充実を図れば、自分の考えや集団の考えを広げ深めることができるであろう。
- ② 全学年の各領域における「数学的な見方・考え方」を明らかにし、指導の工夫を図れば、児童一人一人が目的意識をもって問題解決に取り組むことができるであろう。
- ③ 数学的な表現を用いて考えたり説明したりするなど学習活動の充実を図れば、考えを表現し伝え合う集団が育つであろう。
- ④ 育成を目指す資質・能力を明確にした上で、ICT機器の活用を図れば、数量や図形についての感覚を豊かにしたり表現する力を高めたりすることができるであろう。

3 研究内容

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ① 児童自らが、問題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり新たな問いを見いだしたりする力を育てる。(めあて、ふり返り)
- ② 数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し合うことで新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことでよりよい考えに高めたりするなど、自分の考えや集団の考えを広げ深める力を育てる。

(2) 「数学的な見方・考え方」を明確にした授業の充実

児童一人一人が「数学的な見方・考え方」を働かせながら、目的意識を持って問題解決に取り組むことができるよう、全学年の各領域における「数学的な見方・考え方」を明らかにし、指導の工夫を図る。

(3) 考えを表現し伝え合う学習活動の充実

具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどの数学的な表現を用いて考えたり説明したりするなどの学習活動を充実させる。

(4) ICT機器の活用

育成を目指す資質・能力を明確にした上で、ICT機器を活用して、表やグラフで表現したり図形を動的に変化させたりするなどの活動を取り入れ、数量や図形についての感覚を豊かにしたり表現する力を高めたりできるようにする。

(5) 外部講師(S&Uコラボ事業等)の活用、研修会の充実を図る。

(2) 研究授業を通じた主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
9/6	5年	算数「図形の角」	・児童同士の意見交流の場の設定の工夫 ・ICT機器の活用の工夫（図形の動的な変化や児童同士の共有の場での活用）
11/22	1年	算数「ひきざん」	・児童同士の意見交流の場における説明のしかたの工夫（順序カードの活用） ・ICT機器の活用の工夫（共有の場面での動画の活用）

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①算数科の授業で、児童同士で説明し合う活動を多く取り入れた。個人で考えさせた後、ペアや小グループで交流し全体で共有という授業の流れが確立し、児童同士で考えを広げたり深めたりする姿が見られた。また、説明をさせる場において、順序カードや説明の型等の工夫を行うことで順序立てて説明できる児童が増えたり、友達の考えを説明し合う活動を取り入れることで主体的・対話的な話し合いの場が作られたりした。
- ②「数学的な見方・考え方」を明確にすることで、着目するポイントを教師が意識して指導することができた。児童は目的意識をもって問題解決に取り組むことができた。
- ③デジタル教科書・学習用タブレット端末の活用を図った。課題提示等では時間の短縮が図られ、思考の時間を多く取ることができた。図形を動的に変化させる活動等を取り入れることで、児童の感覚が豊かになったり思考の広がりを感じられたりした。また、児童同士の共有の場でのタブレット端末の活用も図られ、考えの広がりや深まりに有効であった。



(2) 研究の課題

- ①算数科は既習事項が身に付いていないと先に進むのが難しい。前学年までの学習内容が身に付いていない児童もいるため、既習事項を復習させながら学習内容の定着を図っている。個人差が大きく、指導の工夫が必要である。
- ②児童同士の話し合いでは、学習内容を理解した「つもり」になってしまう児童がいる。学び合いを通して得たものを個人の学力として定着させるための手立てを工夫したい。
- ③ICT機器の活用には、教師の活用力が大切である。教員間で差が出ないように研修を積んでいかなければならない。

